

万人となることを見込まれ、18（2006）年に比べて440万人減少することとなり、労働力人口総数に占める65歳以上の者の比率も10.6%となることを見込まれている（図1-2-4-9）。

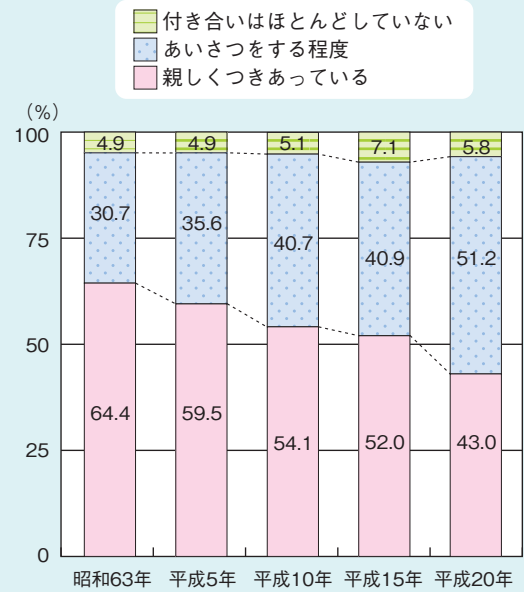
5 高齢者の社会参加活動

（1）活発になる高齢者の社会参加

ア 近所の人たちとの交流が弱まっている

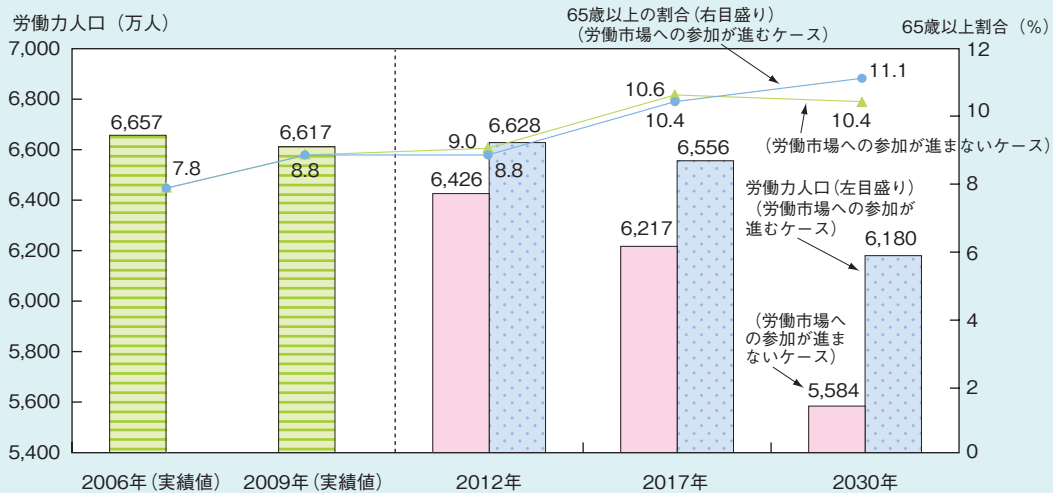
60歳以上の高齢者の近所の人たちとの交流についてみると、「親しく付き合っている」は43.0%、「あいさつをする程度」は51.2%となっている。過去の調査結果と比較すると、「親しくつきあっている」が減少する傾向がみられる一方で、「あいさつをする程度」が増加しており、近所同士の結びつきが弱まっている（図1-2-5-1）。

図1-2-5-1 近所の人たちとの交流



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
 （注）調査対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-4-9 労働力人口と労働力の見通し



資料出所：2006年は総務省統計局「労働力調査」、労働力人口の2012年以降はJILPT「労働力需給の推計（2008年3月）」。
 ただし、労働力人口総数に占める65歳以上の労働力人口の割合については、JILPT「労働力需給の推計（2008年3月）」を踏まえ、内閣府で試算したもの。
 （注1）「労働市場への参加が進まないケース」とは、性・年齢別の労働力率が2006年の実績と同じ水準で推移すると仮定したケース。
 （注2）「労働市場への参加が進むケース」とは、各種の雇用施策を講ずることにより、若者、女性、高齢者等の方々の労働市場への参加が実現すると仮定したケース。
 （注3）この推計においては、税・社会保障制度等の労働力需給に与える影響については必ずしも十分に考慮されていないが、こうした制度が変更されることによって労働力需給に大きな影響を及ぼす可能性があることに留意が必要。

イ 高齢者のグループ活動への参加は約6割で、今後の参加したい高齢者は約7割

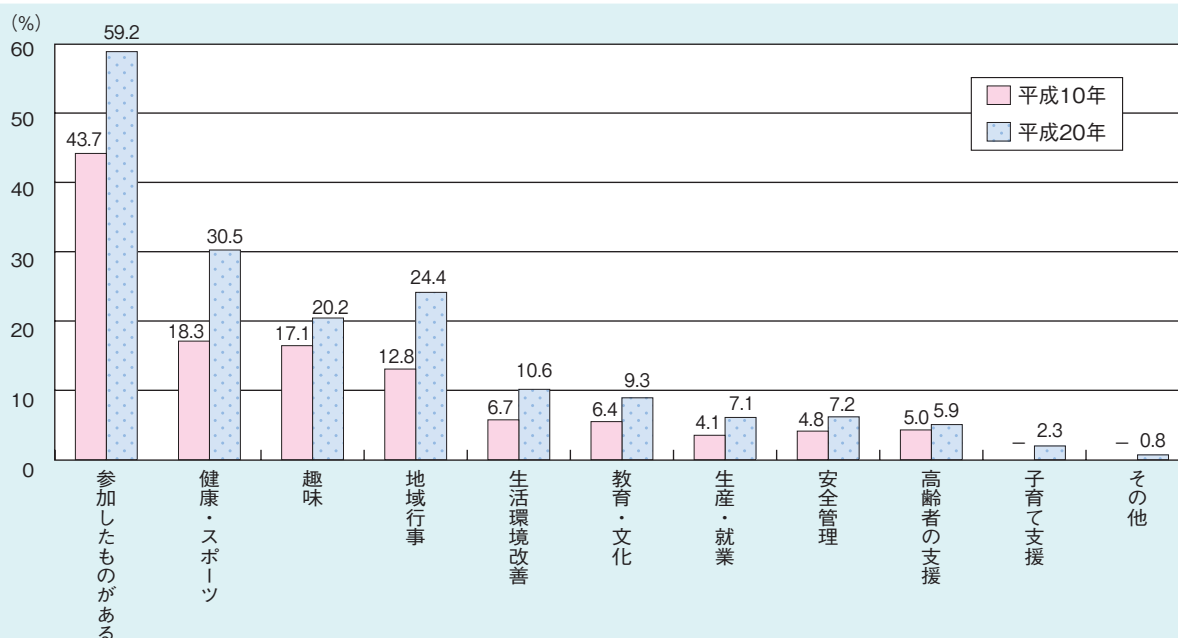
60歳以上の高齢者のグループ活動への参加状況についてみると、59.2%が何らかのグループ活動に参加しており、10年前と比べて15.5ポイント増加している。具体的な活動についてみると、「健康・スポーツ」30.5%、「地域行事」24.4%、「趣味」20.2%、「生活環境改善」10.6%の順となっており、いずれの活動も10年前と比べて増加している（図1-2-5-2）。

また、何らかの活動に参加している人のほうが、活動に参加していない人よりも生きがい（喜びや楽しみ）を感じている（図1-2-5-3）。

さらに、社会参加活動に参加している人のほうが、参加していない人よりもおしゃれへの関心度が高くなっている（図1-2-5-4）。

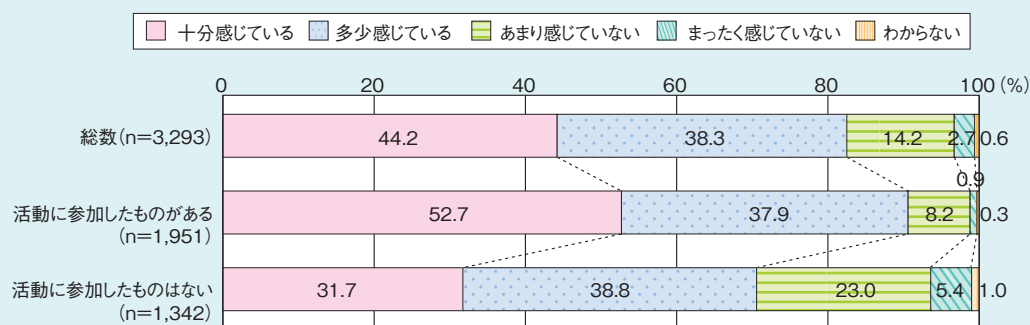
今後の参加意向についてみると、「参加したい」（「参加したい」、「参加したいが、事情があって参加できない」と回答した人の計）と考

図1-2-5-2 高齢者のグループ活動への参加状況（複数回答）



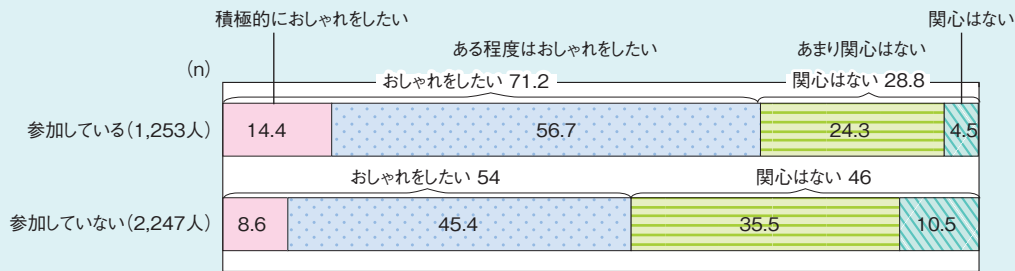
資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
 （注1）調査対象は、全国60歳以上の男女
 （注2）「高齢者の支援」は、平成10年は「福祉・保健」とされている。

図1-2-5-3 高齢者のグループ活動への参加状況（生きがいの有無別）



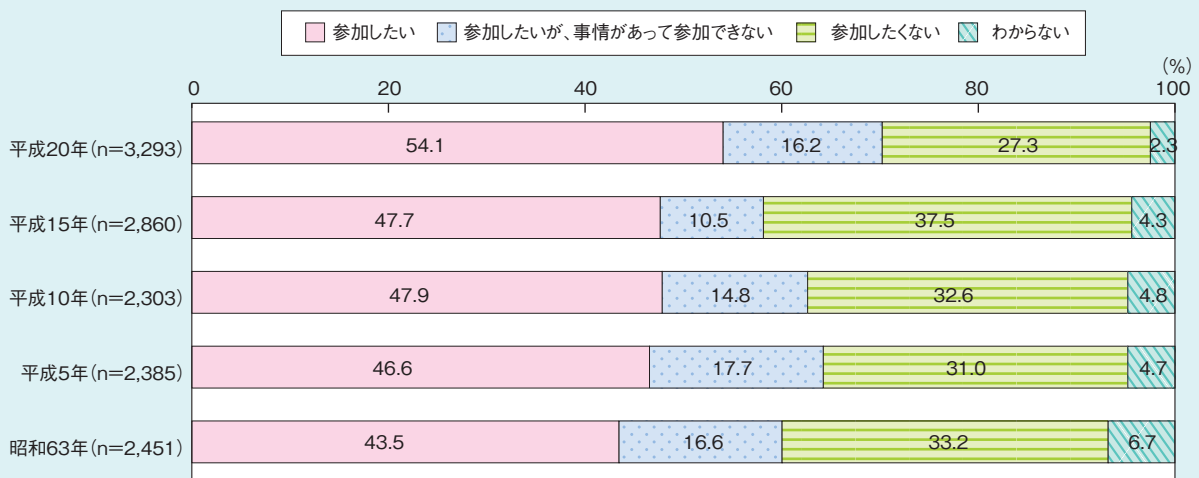
資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
 （注）調査対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-5-4 社会参加活動の有無（おしゃれへの関心度別）



資料：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成21年）
 （注）調査対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-5-5 高齢者のグループ活動への参加意向



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
 （注）調査対象は、全国60歳以上の男女

える人は70.3%となっており、過去の調査と比較すると増加傾向にあり、初めて7割を超えた（図1-2-5-5）。

ウ NPO 活動に対する関心は高く、特に近所の人たちとの交流の有無、親しい友人の有無でその関心度は異なる

地域の福祉や環境を改善することを目的としたNPO（市民活動団体）活動に関心があるかについてみると、「既に活動に参加している」が4.0%、「今後参加したいと思っている」が9.1%、「関心があるがよく分からない」が43.0%となっており、これらを合わせた「関心がある」が56.1%となっている。一方、「関心

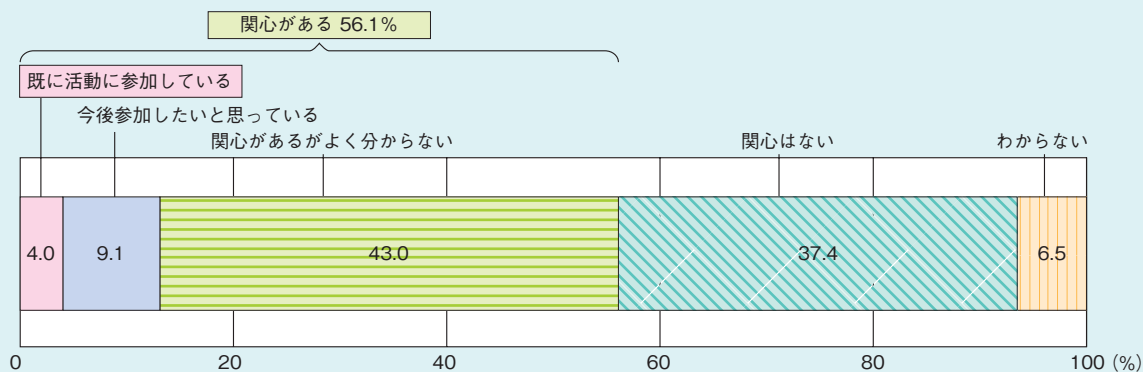
はない」が37.4%となっている（図1-2-5-6）。

また、近所の人たちとの交流の有無や親しい友人の有無と、NPOへの関心度との相関をみると、近所の人たちとの交流があるほうが、また、親しい友人を沢山もっているほうがその関心度が高くなっており、社会参加の状況が高齢者の中で二極化している可能性がある（図1-2-5-7, 8）。

エ 奉仕的な活動の報酬について、受けるべきではないと考える高齢者が増加

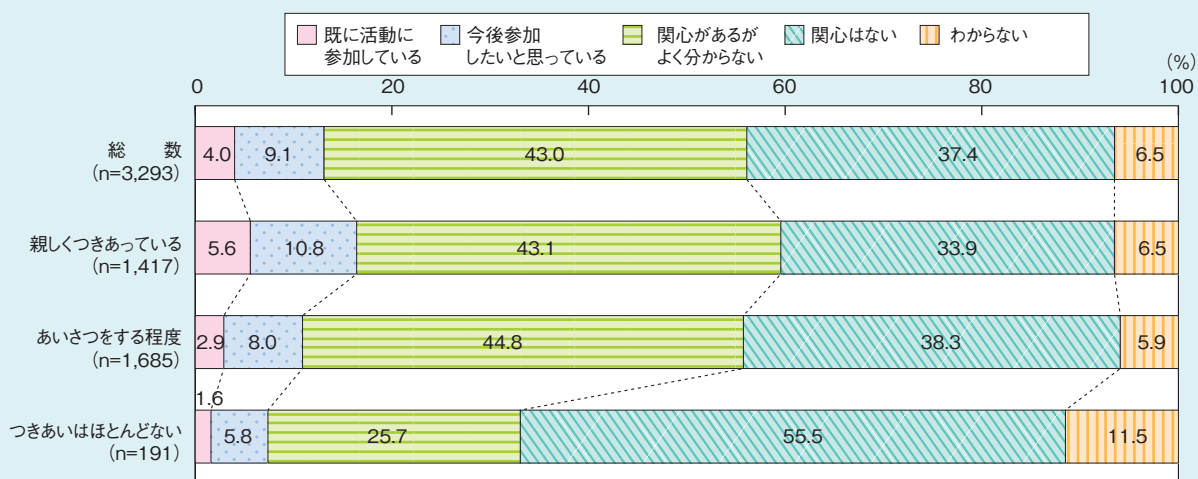
地域のための奉仕的な活動の報酬についての考え方をみると、「地域活動だから、謝礼や報

図1-2-5-6 NPO 活動への関心の有無



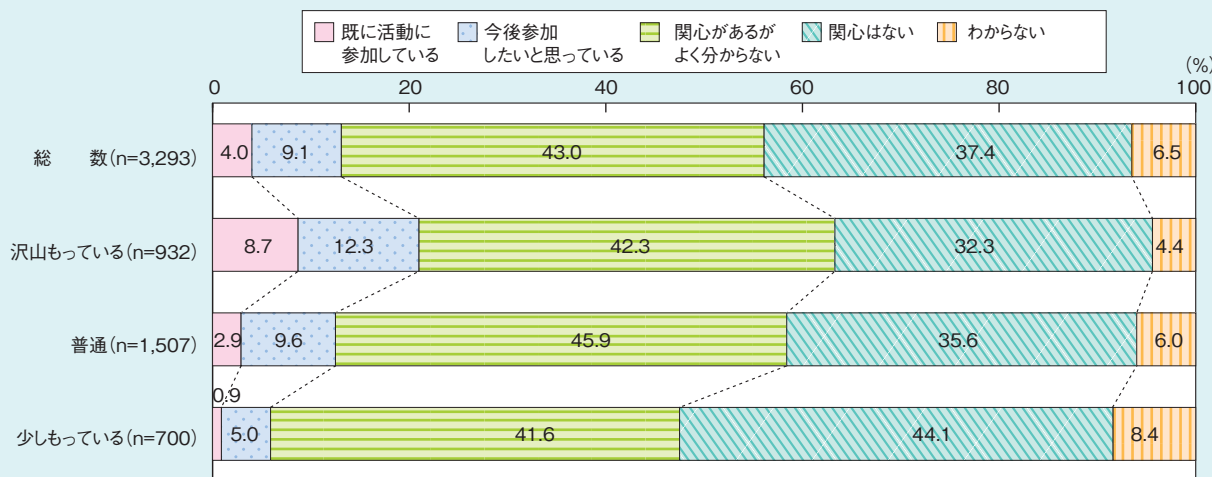
資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
（注）調査対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-5-7 NPO 活動への関心の有無（近所の人たちとの交流の有無別）



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
（注）調査対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-5-8 NPO 活動への関心の有無（親しい友人の有無別）

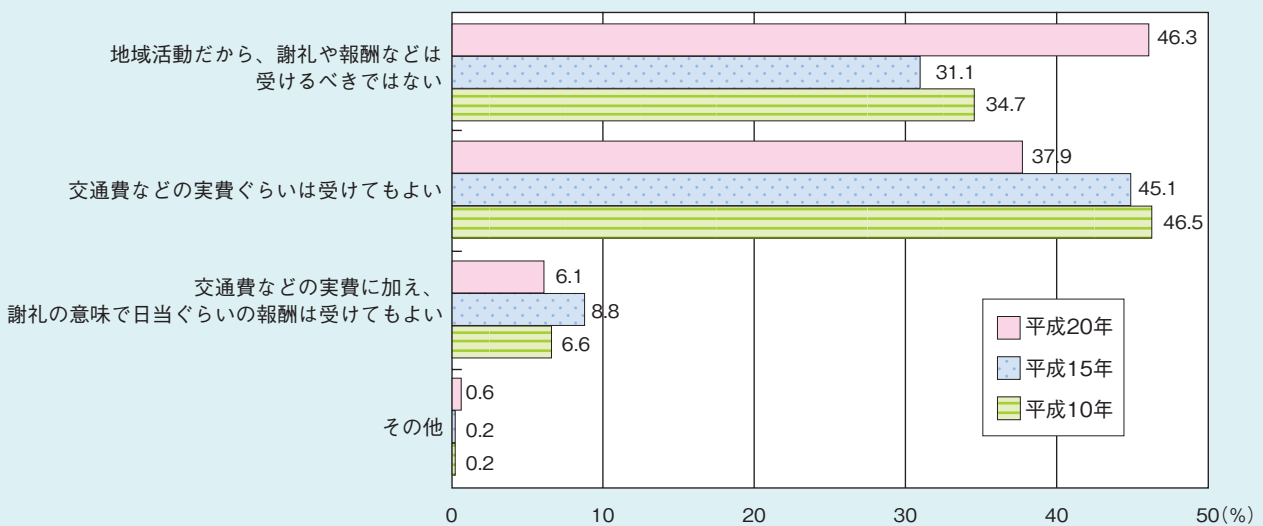


資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
（注）調査対象は、全国60歳以上の男女

酬などは受けるべきではない」が46.3%と最も多く、「地域活動とはいえ、交通費などの実費ぐらいいは受けてもよい」が37.9%、「交通費などの実費に加えて、謝礼の意味で日当ぐらいいの報酬は受けてもよい」が6.1%となっている（図1-2-5-9）。

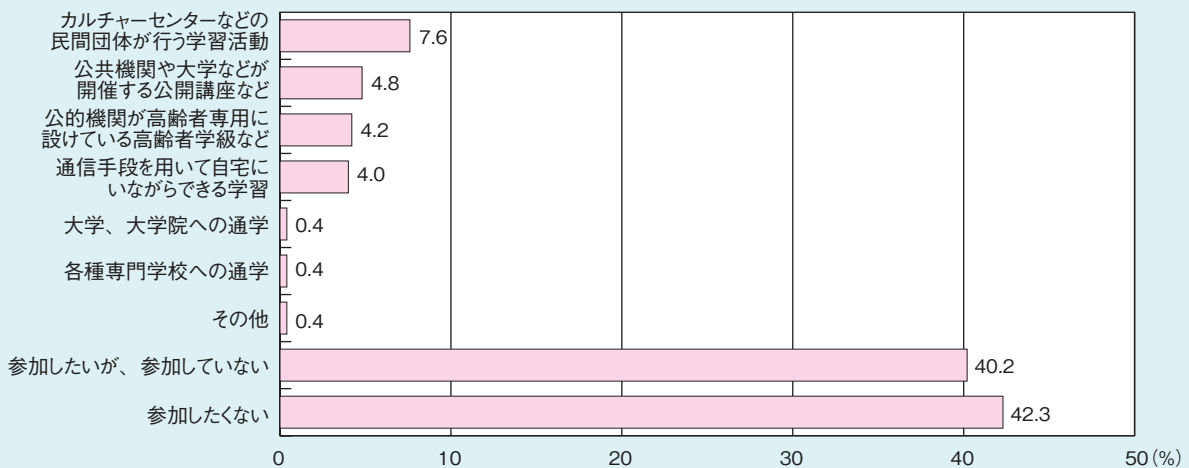
（2）学習活動に参加している高齢者は2割程度
60歳以上の高齢者の学習活動への参加状況についてみると、何らかの学習活動に参加している者の割合は17.4%となっている。具体的な活動では、「カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動」が7.6%、「公共機関や大学などが開催する公開講座など」が4.8%などとなっている（図1-2-5-10）。

図1-2-5-9 奉仕的な活動の報酬についての意識



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
（注）調査対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-5-10 高齢者の学習活動への参加状況（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
（注）調査対象は、全国60歳以上の男女

(3) 若い世代との交流の機会への参加意向は6割

60歳以上の高齢者の若い世代との交流の機会についてみると、なんらかの交流の機会がある者の割合（「よくある」、「たまにある」と回答した人の計）は平成20年で54.9%となっている（図1-2-5-11）。

また、若い世代との交流の機会への参加意向についてみると、参加したいと考える者の割合（「積極的に参加したい」、「できるかぎり参加

したい」と回答した人の計）は平成20年で62.4%となっており、初めて6割を超えた（図1-2-5-12）。

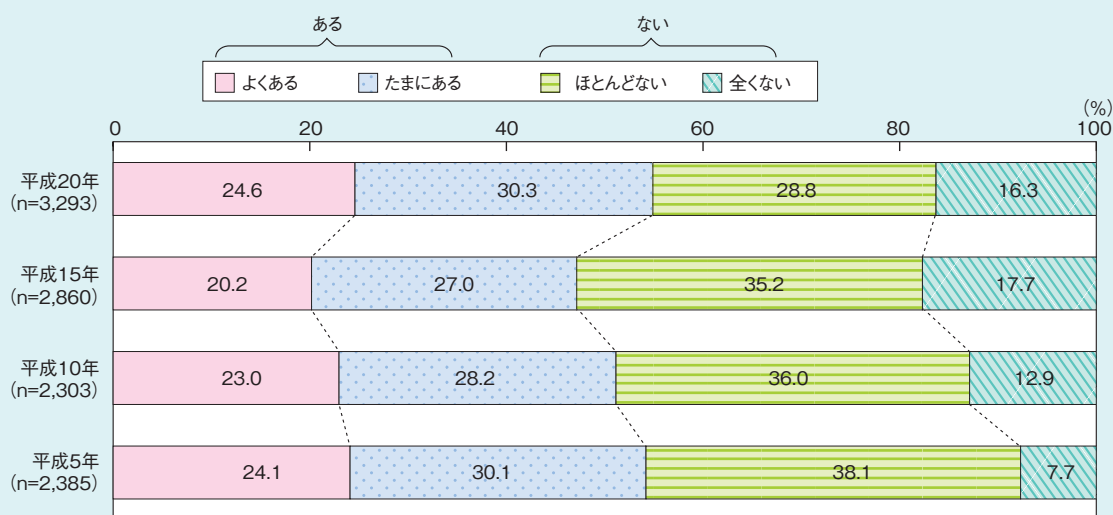
6 高齢者の生活環境

(1) 高齢者は住宅と生活環境に概ね満足

ア 高齢者の9割は現在の住居に満足

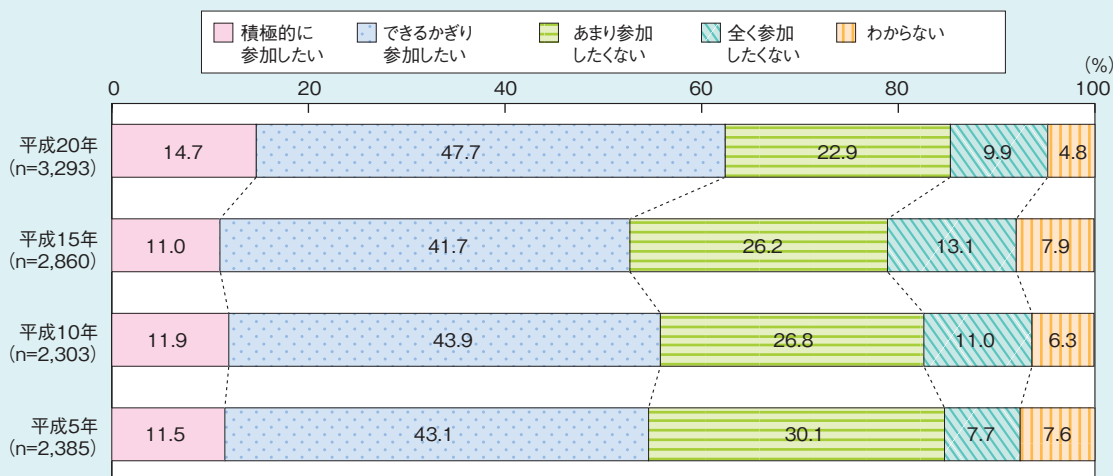
60歳以上の高齢者に現在の住宅の満足度について聞いてみると、「満足」又は「ある程度満足」している人は総数で89.3%、持家で91.2%、

図1-2-5-11 世代間交流の機会の有無



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-5-12 若い世代との交流の機会への参加意向



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女